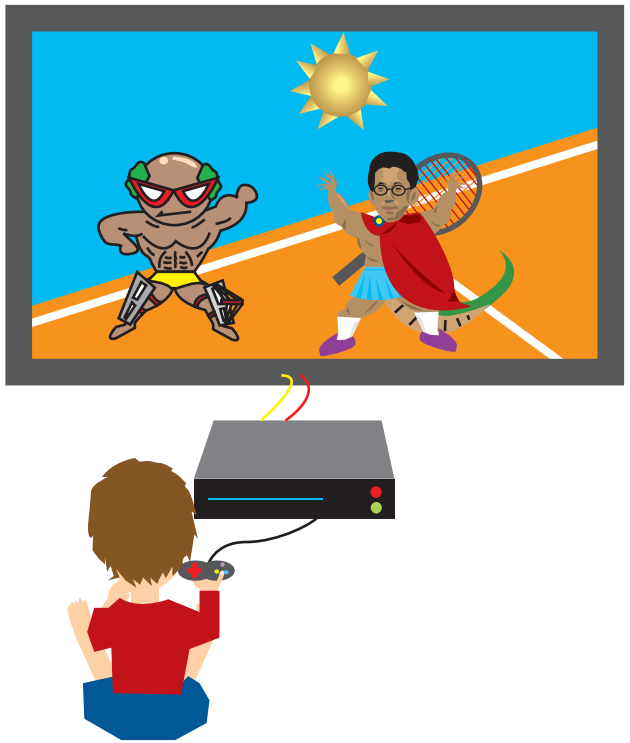
STORY 05 建設リサイクルの逆襲

登場人物
ゆきじ君（杉木さん息子　5歳）、杉木さん妻=ゆきじの母（30歳）

ゆきじは最近一日のほとんどをテレビの前で過ごしていました。大好きなロボットのおもちゃも、お気に入りのお絵かきセットも、部屋に散乱▪（さんらん）したままになっていました。ゆきじはおばあちゃんに買ってもらった新しいテレビゲームに熱中しているのです。このゲームは幼稚園（ようちえん）でもみんな持っていて、ゆきじは友達より少しでも早くクリアするために必死になっていました。



母：ゆきじ！ゲームいつまでやってるの！

ゆ：あと5分！！　ピコピコピコ・・・ピコピコピコ・・

ゆ：（よしこれで最後のボスだ。こいつを倒せばクリアだ！明日幼稚園でみんなに自慢（じまん）できるぞ！）あれ？？？コントローラーが効かないぞ？？

突然ゆきじのゲームがいうことを聞かなくなってしまい、ゲームの中では倒していたモンスターが暴れだしました。

ゆ：壊れちゃったのかな！もうすぐ倒せそうなのに！！

ゆきじがあきらめてゲームを消そうとしたとたん、突然（とつぜん）テレビの中から暴れていたモンスターが飛び出してきたのです。
モンスターはゆきじの家の庭を飛び越えて不気味（ぶきみ）な光線（こうせん）をはなちながら、隣に建っているマンションをこわしはじめたのです。

ゆ：うわーーーー

ゆきじはびっくりして倒（たお）れこみました。
その間もモンスターは、周りのビルをどんどんこわしていきます。

ゆ：た、たすけてーーーー

ゆきじが怖（こわ）くて動けなくなっていると、今度（こんど）はテレビからゲームのキャラクターのリサイクルマンが飛び出してきました。

リ：やめろ！！！

リサイクルマンはモンスターの前に立ちはだかりました。
モンスターはさらに建物（たてもの）をこわしながら、リサイクルマンに襲（おそ）いかかりました。

ゆ：リサイクルマン！がんばれ！

襲いかかってきたモンスターにリサイクルマンは言いました。

リ：こんなに建物をこわしてめちゃくちゃにして、どうやって分別するつもりなんだ！

モ：分別（ぶんべつ）？？？？？

ゆ：・・・ぶんべつ？？

モンスターもゆきじもリサイクルマンを見ました。

リ：建物をこわしたり、建てたりするときは建設（けんせつ）リサイクル法に基づいて材料（ざいりょう）ごとに分けないといけないんだ！

モ：え、そうなの？

リ：建物にはたくさんのコンクリートや木が使われているだろう？これらは分けてこわせば、形（かたち）を変えてもう一度使うことができるんだ。普段（ふだん）のゴミを捨てるときも、カンやビン、生ごみなどに分別して捨てるだろう。建物だって同じことなんだ。まとめてこわしてしまったら大量（たいりょう）のゴミになるけれど、分けて壊せばたくさんの資源（しげん）に変えることができるんだ！

モンスターは自分がこわした建物を見渡（みわた）しました。

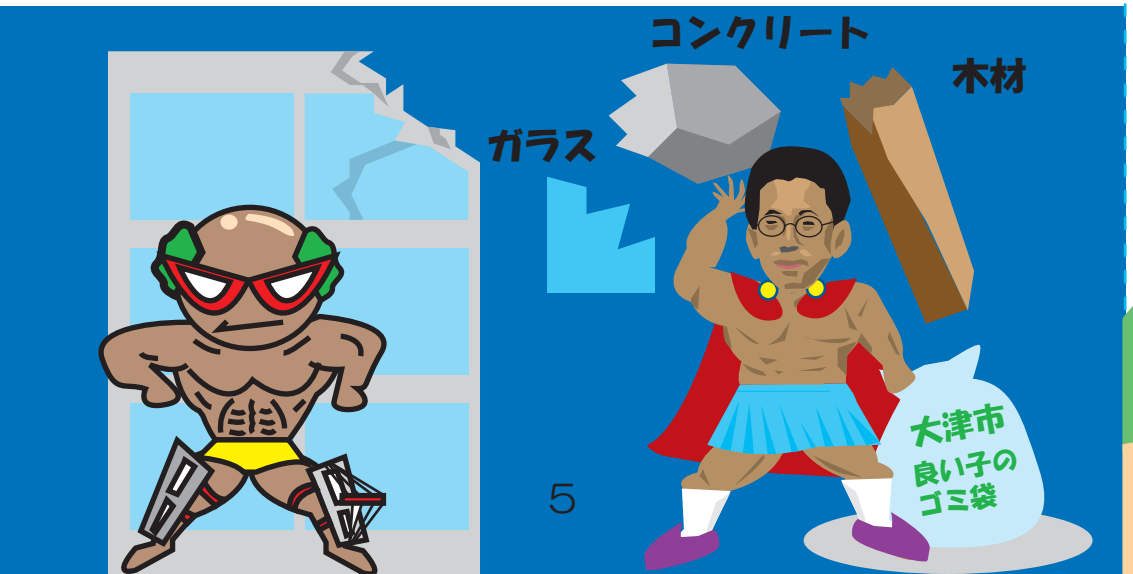
リ：しかも、建物（たてもの）こわしたりするとき、こわす前に届けを出して、実際（じっさい）に建物を壊した後はちゃんと終わりましたと報告（ほうこく）しないといけないんだ！

モンスターは困った顔でリサイクルマンを見ました。

リ：そもそも建物をこわすことができるのは、登録（とうろく）された者だけなんだ。それなのにお前は分別もせず建物を壊してどうするつもりなんだ！

モ：どうするつもりって・・・。

リ：**建設リサイクル法**は建物を解体（かいたい）する前に届出（とどけで）をしてもらって、分別や資源（しげん）の再利用（さいりよう）が終われば状況（じょうきょう）を報告するしくみを決めて、建物の資源のリサイクルがうまく進むために作られた法律（ほうりつ）なんだ。だからお前も建物をこわすときは必ず分別して、使えるものはリサイクルするようにするんだぞ。わかったな！！



モ：わ、わかった。

リ：よし！

リサイクルマンはうんうんとうなづくと、またテレビのゲームの中に戻ってしまいました。

ゆ：え！？リサイクルマン帰っちゃうのーーー！

モ：・・・

ゆ：・・・・

ゆきじとモンスターは、しばらく訳がわからず、立ちすくんでいましたそのとき、はっとわれに返ったモンスターは、また暴れだしました。そして、ゆきじの家をつぶそうと、今度はゆきじの家のほうに向かってきたのです。

ゆ：うわーーーーたすけてーーーー！！！

母：ゆきじ！！！

ゆきじは母の声にびっくりして飛び起きました。

ゆ：・・リ、リサイクルマン！？モンスターは？？？？

母：何寝ぼけたこと言ってるの！いつまでゲームやってるの！

ゆきじは周りを見渡しました。しかしモンスターがこわした隣のマンションも、周りの家もすべて元通りになっていました。

ゆ：ゆ、夢だったのか、よかったーーーー。

母：よかったじゃないわよ！部屋をこんなに散らかして！！早くあとかたずけしなさい！

ゆきじの周りにはおもちゃが散らかり、目の前には、さっきまでやっていたゲームがつきっぱなしになっていました。
ゆきじが本当に怖いのは、モンスターでもリサイクルマンでもなかったようです。そしてゆきじは二度とあんな怖い夢を見ないように、おもちゃを分けてかたづけはじめました。

リサイクルマンの見事な活躍により、平和は保たれた♪

次回、ＳＴＯＲＹ６　宅地造成見えざる地下の物語！！
乞うご期待♪